

第5学年 国語科学習指導案

1 単元名 学習したことを生かして 「大造じいさんとガン」

2 指導観

○ 本学級の児童の実態

国語の学習に関するアンケート調査からは、次のような結果が見られた。(26名回答)

「物語の読みの学習は好きですか。」という問いに対し、「とても好き」「好き」と答えた児童が18名、「あまり好きではない」と答えた児童が8名で、全体的に物語の読みの学習を好む傾向にあることが分かった。

読むことの学習においては、本学級の児童は、これまでに「新しい友達」「わらぐつの中の神様」の学習を通して、読みのめあてに沿って人物の気持ちやものの見方・考え方及びその変化、生き方を人物の言動と関係付けながら読み取る学習をしてきている。その中で、児童は、少しずつ根拠とすることばをはっきりさせて、解釈しながら読み取ることができるようになってきている。また、文章構成に気を付けながら、ことばをたどり結んで読み取ることや、既習の読み方を生かして読むこともできるようになってきている。しかし、読みの能力における個人差が大きく、個別指導を必要とする児童の姿も見られる。また、自分一人の力では部分的な読みで終わってしまう児童もおり、文章構成を的確にとらえ作者の伝えたいことを自力で読みまとめることは、まだ十分できていない。

書く活動については、これまでに、「新しい友達」「わらぐつの中の神様」の学習を通して、根拠となる箇所と、その理由を書きながら、学習のめあてに対する答えを書く書き込みをくり返している。しかし、これも個人差が大きく、どの言葉に着目すればいいのか、何を書けばいいのか明確になっていないまま、書き込みの時間を過ごしている児童がいる。一方、交流後のまとめを書くことは、板書を手掛かりにしているため、本時で確かめたことを書きまとめることはどの児童もできている。しかし、はじめの自分の読みと最後の自分の読みを見直して、その変容を意識して書きまとめるまでには至っていない。

○ 本教材の価値

本教材は、大造じいさんとガンの頭領である残雪との知恵の限りを尽くした戦いを通して、残雪の頭領らしい態度に感動し、かりゅうどとしての誇りをかけて堂々と戦いたいライバルとして認めるようになった、大造じいさんの残雪に対する気持ちや見方の変化を描いた物語である。

文章構成の特質としては、前書きと4つの場面から構成されており、前書きには、作者が「わたし」として登場し、読み手を物語の世界に誘い込む役割を果たしている。また、その後の4つの場面には、大造じいさんと残雪の戦いが起承転結の形で展開され、その展開を追う中で、大造じいさんの残雪に対する気持ちや見方の変化を思い描けるようになっていく。

文章表現の特質としては、呼称の変化を表す言葉の工夫、強調表現や文末表現の工夫があり、類義語や指示語の使い分けなどが巧みで、児童に言葉の読み方を身に付けさせるのに適した教材であると言える。

○ 書く活動の充実

5年生の読みの学習における、書く活動の充実とは、象徴性や暗示性の高い表現を選び、その言葉や文を比べたりつないだりして関連付けながら自分の読みとその根拠となった箇所と理由を書き込むことである。また、登場人物の相互関係や心情、考え方や生き方、優れた叙述についての自分の考えを確かにし、書きまとめることである。

○ 論理的思考力を育成するための書く活動

(1) 大造じいさんの残雪に対する気持ちや見方の変化を、論理的に読むために、次の3点から自分の読みをつくる。【書く活動1】

- ① 中心文に問いかけたり、着目することばや文を話し合ったりしながら、大造じいさんの残雪に対する気持ちや見方の変化が分かる根拠となる箇所を指摘する。(箇所)
- ② 根拠となった箇所から考えたこと、なぜその箇所を選んだのかを書く。(理由付け)
- ③ 学習のめあてに対する自分の答え(大造じいさんの残雪に対する気持ちや見方の変化)を書きまとめる。(答え)

(2) (1)で書きまとめた自分の読みを交流をすることを通して、友達との答え、根拠、理由付けの共通点や相違点から、次の2点を「今日の学習で」に書きまとめる。【書く活動2】

- ① 深まった自分の読み
- ② 学んだ読み方

○ 指導にあたって

指導にあたっては、次のような支援や手立てを取り入れていく。

まず、題名の中の助詞「と」から大造じいさんとガンの関係に問題意識を持たせた後、前書きを読んでいく。前書きに作者が「わたし」として登場していることに着目させることで、大造じいさんとガンの関係に作者の伝えたいことがこめられていることを確認し、両者の関係を追求する読みのめあてを生み出す。

次に、全文を読み、大まかな文章構成と展開をとらえる。そして、文章全体が大造じいさんの視点から書かれていることに着目させ、根拠をはっきりさせながら、作者が伝えたい大造じいさんと残雪の関係を自分の読みのめあての答えに書きまとめるようにする。その後、読みのめあての答えを交流する中で重なりや違いを明らかにし、学級の読みのめあての答えを方向付ける。交流する中で、場面ごとに大造じいさんの残雪に対する気持ちや見方の変化をたどりながら、大造じいさんと残雪の関係を読み確かめること、さらに、どの叙述を中心に確かめるのかを全体で確認し、読み確かめる計画を立てる。

読み深め・確かめでは、大造じいさんと残雪の関係を読み確かめるために、場面ごとに、呼称の変化を表す言葉、文末表現、類義語、指示語などを手がかりに、大造じいさんの残雪に対する気持ちや見方の変化を読み取っていく。その際、学習プリントには、①答えをつくるために手がかりにした言葉や文（箇所）、②その箇所から考えたことや選んだ理由（理由付け）③学習のめあてに対する自分の答え、以上の3点を自分の読みとして書くようにする。それらを交流して、大造じいさんの残雪に対する気持ちや見方の変化を読み深めていくこととする。

最後に、これまでの読みを振り返り、前書きの役割に着目した読み方や呼称の変化に着目した読み方などについてまとめるとともに、題名と前書きにもどって、作者が伝えなかったことについてまとめる。さらに、大造じいさんのものの見方・考え方について自分の感想を書きまとめる。

3 単元目標

- 残雪の頭領らしい態度に感動し、人間と鳥という立場の違いをこえて、かりゅうどとしての誇りをかけて堂々と戦いたいライバルとして認めるようになった、大造じいさんの残雪に対する気持ちや見方の変化を読み取ることができる。
- 前書きの役割に着目し、文章構成に気を付けながら、呼称の変化を表す言葉、文末表現、類義語、指示語を手がかりとして、人物の気持ちや見方の変化を読む読み方を身に付けることができる。
- ◎ 大造じいさんの残雪に対する気持ちや見方の変化を、箇所と理由を指摘しながら論理的にとらえることができる。

4 単元計画 全13時間

過程	時	主な学習活動と内容	指導上の留意点
読 み の め あ て	1	1 単元名から学習の構えをもつ。 2 題名から考えたことや疑問に思ったことを出し合う。 3 題名の読みとつないで前書きを読む。 4 題名と冒頭をつないで読み、読みのめあてを生み出す。 [読みのめあて] 語り手のわたしは、大造じいさんとガンのどんな関係を伝えたいのだろう。	○ 今までの学習で学んだ言葉や文章の読み方を生かして読む構えをつくる。 ○ 題名の「と」の働きと、作者が「わたし」として登場し、「～を書いてみました。」「～をお読みください。」と述べている意図に着目させ、読みのめあてをつくらせる。
	2 3	1 教師の範読を聞く。 2 音読の練習をする。 3 文章構成と展開をとらえる。 4 読みのめあての答えを書きまとめる。 単元導入における【書く活動】	○ 難語句については補説しながら範読する。 ○ 家庭学習や朝のタイムにも継続する。 ○ 構成と展開をとらえやすい板書をする。 ○ 論理的に作品に対する自分の読みをつくることできるように①自分の読みのめあての答え②根拠とした箇所③根拠とした箇所から考えたこと（理由付け）を書きまとめさせる。
読 み の め あ て の 答		5 友達の読みのめあての答えと比べながら話し合い、重なりや違いを明らかにして、読みのめあての答えを方向付ける。	○ 読みのめあての答えの違いや曖昧さ、解決

え		できない疑問は残し、学習計画へとつなぐ。
学習計画	<p>〔読みのめあての答えの方向〕</p> <p>最初は残雪を怒りの相手と思っていたが、残雪が助ける姿を見て英雄と思い、自分のライバルと思うようになった。だから、ライバルのような関係を伝えたかった。</p> <p>(ライバルとは、自分と同じくらいの力で自分と同じ立場の競争相手)</p>	<p>○ 文章全体が大造じいさんの視点から書かれていることに着目させ、大造じいさんの残雪に対する気持ちや見方の変化を読み深め、両者の関係を読み確かめていくことを確認する。</p> <p>○ どの叙述を中心に読み深め・確かめるのか全体で確認し、学習計画表に位置付けておく。</p>
読み深め・読み込み・読み込み・読み込み	<p>〔学習計画〕</p> <p>○ 大造じいさんの残雪に対する気持ちや見方の変化をたどって、大造じいさんと残雪の関係を読み確かめていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・場面1…「ううむ。」大造じいさんは、思わず感嘆の声をもらしてしまいました。 ・場面2… 大造じいさんは、～「ううん。」と、うなってしまう。 ・場面3… 大造じいさんは、強く心を打たれて、～気がしませんでした。 ・場面4…「～おれたちは、また堂々と戦おうじゃあないか。」～見守っていました。 	<p>○ 文章全体が大造じいさんの視点から書かれていることに着目させ、大造じいさんの残雪に対する気持ちや見方の変化を読み深め、両者の関係を読み確かめていくことを確認する。</p> <p>○ どの叙述を中心に読み深め・確かめるのか全体で確認し、学習計画表に位置付けておく。</p>
読み深め	<p>5</p> <p>6</p> <p>「ううむ。」と感嘆の声をもらしてしまっただ造じいさんの残雪への気持ちや見方の変化を読んで、大造じいさんと残雪の関係を読み確かめよう。</p> <p>1 中心文をもとに、学習のめあてに対する答えを書く(答え)</p> <p>2 答えの根拠となった箇所を指摘する(箇所)</p> <p>3 指摘した箇所から考えたことを書いたり、たどり結んだりする(理由付け)</p> <p>【書く活動1】</p> <p>4 前時に書きまとめたものをもとに話し合い、思わず感嘆の声をもらしてしまっただ造じいさんの残雪に対する気持ちや見方の変化をたどること</p> <p>5 深まった自分の読みと、その読みを導くために使った読み方について書きまとめる。</p> <p>【書く活動2】</p> <p>大造じいさんは、残雪のことをにくんでいて、とっておきのウナギつりばり作戦をしかけたのに、残雪に見破られてしまい、敵でも感心せずにはいられないほどすごい鳥だと思っている。それは、「思わず」をはずしたり、「もらしてしまいました」の文末を読んだりして分かりました。</p>	<p>○ 根拠となる叙述をはっきりさせ、その解釈と自分の読みを書きまとめるよう助言する。</p> <p>○ 「いまいまして思っていました」「たかが鳥」「『ううむ。』『思わず感嘆の声をもらしてしまいました』などの叙述を、つないで読んだり、似た言葉と比べたりすることで、いまいましてと思いつつも感心するつもりではなかったのに、感心してしまっただ造じいさんの気持ちを読み取らせる。</p> <p>○ 児童の考えを分析しておき、話し合いの流れや発問を考えておく。</p> <p>○ 本時学習で確かめられたことと読み方を全体で振り返り、読み深め・確かめられたことや読み方を書きまとめさせる。</p>
読み深	<p>7</p> <p>8</p> <p>広いぬま地の向こうをじっと見つめたまま、「ううん。」と、うなってしまった大造じいさんの残雪への気持ちや見方の変化を読んで、大造じいさんと残雪の関係を読み確かめよう。</p> <p>1 中心文をもとに、学習のめあてに対する答えを書く(答え)</p> <p>2 答えの根拠となった箇所を指摘する(箇所)</p> <p>3 指摘した箇所から考えたことを書いたり、</p>	<p>○ 「夏のうちから心がけて」「タニシを五俵ばかり」「四、五日も続いた」「夜の間～小屋を作って」などの叙述を1の場面の作戦にかけた日数や手間と比べ、2の場面</p>

め・
確
か
め

たどり結んだりする（理由付け）

【書く活動1】

- 4 前時に書きまとめたものをもとに話し合い、大造じいさんと残雪の関係を読み確かめる。
- ② ○ 広いぬま地の向こうをじっと見つめたまま、「ううん。」と、うなってしまった大造じいさんの残雪に対する気持ちや見方の変化をたどること

- 5 深まった自分の読みと、その読みを導くために使った読み方について書きまとめる。

【書く活動2】

大造じいさんは、1の場面より手間暇かけた自信のあった作戦を、またしても残雪に見破られ、今までの苦労が水の泡になり、呆然とし、最後の手までやり尽くし、もう打つ手がなくなったと思っている。それは、1の場面の「ううむ。」と2の場面の「ううん。」を比べて読むと分かりました。

のタニシばらまき作戦にかける大造じいさんの意気込みと自信を読み取らせる。

- 「ところが～またしても、残雪のためにしてしてやられてしまいました」「大造じいさんは～『ううん。』と、うなっていました。」とつなぎ、1の場面の「もらして」と比べることで、余裕がなくなってきた大造じいさんの気持ちを読み取らせる。
- 児童の考えを分析しておき、話し合いの流れや発問を考えておく。
- 本時学習で確かめられたことと読み方を全体で振り返り、読み深め・確かめられたことや読み方を書きまとめさせる。

9

10

読
み
深
め
・
確
か
め

③

強く心を打たれて、ただの鳥に対してのような気がしなかった大造じいさんの残雪への見方や気持ちの変化を読んで、大造じいさんと残雪の関係を読み確かめよう。

- 1 中心文をもとに、学習のめあてに対する答えを書く（答え）
- 2 答えの根拠となった箇所を指摘する（箇所）
- 3 指摘した箇所から考えたことを書いたり、たどり結んだりする（理由付け）

【書く活動1】

- 4 前時に書きまとめたものをもとに話し合い、大造じいさんと残雪の関係を読み確かめる。
- ③ ○ 強く心を打たれて、ただの鳥に対してのような気がしなかった大造じいさんの残雪に対する気持ちや見方の変化をたどること

- 5 深まった自分の読みと、その読みを導くために使った読み方について書きまとめる。

【書く活動2】

大造じいさんは、残雪のことを命を捨ててまで仲間を救おうと敵にぶつかっていく残雪の姿や最期の時を感じた時の残雪の頭領らしい威厳のある姿に強く感動して、鳥を超えた人間以上の鳥だと思うようになった。それは、場面を比べて読んだり、呼び方の変化を読んで分かりました。

- 何に強く心を打たれたのか、仲間を救う残雪の姿と頭領にふさわしい残雪の態度の叙述をつなぎ、1の場面の「たかが鳥」と比べて読むことで、鳥以上の存在としてとらえるようになった大造じいさんの残雪に対する気持ちや見方の変化を読み取らせる。

- 児童の考えを分析しておき、話し合いの流れや発問を考えておく。
- 本時学習で確かめられたことと読み方を全体で振り返り、読み深め・確かめられたことや読み方を書きまとめさせる。

11

12

読
み
深
め
・
確

いつまでも、いつまでも見守っていた大造じいさんの残雪への気持ちや見方の変化を読んで、大造じいさんと残雪の関係を読み確かめよう。

- 1 中心文をもとに、学習のめあてに対する答えを書く（答え）
- 2 答えの根拠となった箇所を指摘する（箇所）
- 3 指摘した箇所から考えたことを書いたり、たどり結んだりする（理由付け）

【書く活動1】

- 「ガンの英雄よ」と「たかが鳥」を比べて読んでどんなふうに見方が変わっているのか読み取らせる。
- 「ひきょうなやり方で～」と「また堂々と～」という会話をつないで読んで大造じいさんの気持ちを読み取らせる。

<p>かめ ④ 本時</p>	<p>4 前時に書きまとめたものをもとに話し合い、大造じいさんと残雪の関係を読み確かめる。</p> <p>○ いつまでもいつまでも見守っていた大造じいさんの残雪に対する気持ちや見方の変化をたどって、大造じいさんと残雪の関係を読み確かめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>5 深まった自分の読みと、その読みを導くために使った読み方について書きまとめる。 【書く活動2】</p> </div>	<p>○ 「いつまでも、いつまでも」という繰り返しを読み、どのくらいの時間なのか、「見守って」とは大造じいさんが何を見てどんなことを考えているのかを読み取らせ、大造じいさんの残雪の関係を確かめる。</p> <p>○ 児童の考えを分析しておき、話し合いの流れや発問を考えておく。</p> <p>○ 本時学習で確かめられたことと読み方を全体で振り返り、読み深め・確かめられたことや読み方を書きまとめさせる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>大造じいさんは、残雪のことを自分と同じ対等なライバルとして認め、残雪のことを心配しつつも、これからも、正々堂々と戦いたいと願っている。それは、場面をつないで読んだり、呼称の変化を読むと、「たかが鳥」と見下していたのが「ガンの英雄」と言うまでになり、大造じいさんの残雪への見方の変化が分かりました。そして、「いつまでも、いつまでも」の繰り返しや、「見守って」と見るを比べて読むことで、残雪を心配し、ガンとの次の戦いを楽しみにしている大造じいさんの気持ちが分かりました。</p> </div>
<p>読み・読み方のまとめ</p>	<p>13</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>今までの学習を振り返り、棟鳩十さんの伝えたかったことをまとめ、読み方のまとめをしよう。</p> </div> <p>1 読みのまとめをする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>〔読みのまとめ〕 語り手のわたしは、大造じいさんと残雪が、人間と鳥、かりゅうどとえものという立場の違いをこえて、堂々と戦うライバルのような関係であることを伝えたい</p> </div> <p>2 読み方のまとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 前書きの役割に着目して読む ○ 呼称の変化を読む ○ 類義語を読む ○ 指示語を読む 他 <p>3 読み深め・確かめてきたことを振り返り、読みのまとめをする。</p>	<p>○ 題名と前書きにもどって、作者が伝えたかったことについてまとめる。</p> <p>○ 学習の足跡を残した掲示物を使いながら、ことばや文章の読み方を振り返り、今後の読みの学習の中で使うことができるようにする。</p> <p>○ 大造じいさんのものの見方・考え方についての自分の感想を書きまとめる。</p>

5 本時

平成21年11月9日(月)

6 本時の目標 (12/13)

- 仲間のために命をかけて戦った残雪のことを、よきライバルとして認めるようになった大造じいさんの見方の変化と、残雪との今後の戦いを期待したり、残雪の行く末を案じたりしている大造じいさんの気持ちを読み深め、大造じいさんと残雪の関係を読み確かめることができる。
- 残雪に対する呼び方の変化を1の場面からたどり、4の場面で「ガンの英雄」と変わっていることから、大造じいさんの残雪に対する見方の変化を読み取る読み方、「いつまでも、いつまでも」という繰り返しを読んだり、「見守って」を「見る」や「見送って」と比べて読んだりして大造じいさんの気持ちの変化を読み取る読み方を身に付けることができる。
- ◎ 大造じいさんの残雪に対する気持ちや見方の変化を、箇所と理由を指摘しながら読み取り、大造じいさんと残雪の関係を書きまとめることができる。

7 本時指導の考え方

前時までに児童は、各場面ごとに大造じいさんの残雪に対する気持ちや見方の変化をもとに、大造じいさんが残雪のことをどう思っているのか読み深めてきている。その中で、場面を比べて読んだり、呼称の変化を読んだり、文末表現を読んだりする読み方を活用している。

本時は、前時の書き込みをもとにして、北へ北へと飛び去っていく残雪を「いつまでも、いつまでも」見守っている大造じいさんの残雪に対する気持ちや見方の変化を読み深め、大造じいさんと残雪の関係を読み確かめる学習である。

前時の書き込みでは、中心文に問いかけ、自分の読みとして次のことを学習プリントに書きまとめている。

【書く活動1】

(1) 中心文の問いかけに対する答え

- 1 「ガン」の英雄から、どんなふうにか大造じいさんの残雪への見方が変わっているか
- 2 「また堂々と戦おうじゃあないか」とは、どんな気持ちなのか
- 3 「いつまでも、いつまでも」から、どのくらいの時間なのか
- 4 「見守っていました」から、何を見て、どんなことを考えているのか

以上4つの問いかけに対してそれぞれ、次の①～③を書き込む

- ① 答えを導くための根拠となった言葉や文（箇所）
- ② その箇所から分かったこと、なぜその箇所を選んだのか（理由付け）
- ③ 問いに対する答え（答え）

(2) 学習のめあてに対する答え

1～4の書き込みをもとに、大造じいさんと残雪はどのような関係であるといえるのか書きまとめる。

最初に、前時までを振り返り、本時の見通しをもった後、まず、(2)の答えを出し合う。出し合った意見が適切であるか確かめるために、中心文に問いかけた上記の1～4を順に話し合う。それぞれの交流で、友達の発表と自分の書き込みの共通点や相違点を考えながら話し合いを進めていく。

○「ガン」の英雄という言葉に目を向け、前場面までの「たかが鳥」「残雪め」と比べることで、えものとして見ていた残雪を、今では、最高のほめ言葉を使って尊敬していることをとらえる。

○「また堂々と戦おうじゃあないか。」から、これまでの作戦とつないで考え、正々堂々と戦おうという大造じいさんの気持ちを読み取る。

○「いつまでも、いつまでも」という繰り返しの言葉に着目し、残雪が見えなくなるまでの長い時間であることをとらえさせる。

○「見守っていました」という言葉と「見て」や「見送って」という言葉と比べたりして読むことで、大造じいさんが北へ北へと飛び去っていく残雪を見て、これらかもいっしょに戦いたいと思いつつも、群れに無事に帰れるのか、本능が鈍っていないかなど残雪に対する心配の気持ちも読み深める。

そして、これまでの話し合いをもとにしながら、最初に出し合った、(2)の学習のめあての答えが適切かどうか話し合う。

最後に、次の2点を「今日の学習で」として書きまとめさせる。

- ### 【書く活動2】
- ① 本時を通して深まった自分の読み
 - ② 本時で学習した読み方

○ 論理的思考力を育成するための書く活動

(1) いつまでもいつまでも見守っていた大造じいさんの残雪への気持ちや見方の変化、大造じいさんと残雪の関係についての自分の読み（根拠、理由、答え）を書く。【書く活動1】

(2) いつまでもいつまでも見守っていた大造じいさんの残雪への気持ちや見方の変化、大造じいさんと残雪の関係について交流した後、深まった自分の読み、学んだ読み方について書きまとめる。

【書く活動2】

検証の視点

○ いつまでもいつまでも見守っていた大造じいさんの残雪への見方や気持ちの変化を読み、大造じいさんと残雪の関係を読み確かめるのに、【書く活動1】【書く活動2】の位置付けとその内容・方法は有効であったか。

8 本時の展開

学習活動と内容	指導上の留意点
<p>1 本時学習のめあてを確認する。</p> <p>○ 3の場面までの内容と読み方を振り返り、本時学習の見通しをもつこと</p> <p><学習のめあて></p>	<p>○ 前時までの掲示物を用いてこれまでの学習の内容を振り返り、本時学習の見通しをもつことができるようにする。</p>
<p>いつまでも、いつまでも残雪を見守っている大造じいさんが残雪のことをどう思っているのかを読んで、大造じいさんと残雪の関係を読み確かめよう。</p>	
<p>2 大造じいさんの残雪への見方、気持ちの変化を話し合う。</p> <p>(1) 学習のめあてに対する答えの交流をする。</p> <p>・同じ力をもつライバル ・正々堂々と戦いたいライバル</p> <p>・いい競争相手、ライバル ・一生戦い合いたいライバル</p> <p>(2) 中心文への問いかけについて話し合う。</p> <p>○「ガンの英雄」という言葉に目を向け、大造じいさんの残雪への見方をとらえること</p> <p>・ただの鳥に対する呼び方ではなくなってきた。</p> <p>・自分より上、尊敬するようになっている。</p> <p>○「また堂々と戦おうじゃあないか。」という言葉から、大造じいさんの気持ちを読み取ること</p> <p>・おとりなんか使わずに堂々と戦いたい。</p> <p>・ひきょうな手を使わずに堂々と戦い勝ちたい。</p> <p>○「いつまでも、いつまでも」という繰り返しの言葉に着目し、大造じいさんの様子を想像すること</p> <p>・残雪が北へ北へ飛び去っていく間</p> <p>・残雪がいなくなるまで</p> <p>○「見守っていました」という言葉から大造じいさんの気持ちを読み取ること</p> <p>・来年の戦いを楽しみにしている。</p> <p>・今度は絶対勝つ。</p> <p>・残雪のことを心配している。</p> <p>(3) 大造じいさんと残雪の関係について話し合う。</p> <p>○ (1)で出し合った言葉が適切であるか、論理的に考えること</p> <p>○ 見方や気持ちの変化から、大造じいさんと残雪の関係がライバルのようになったことをとらえること</p> <p>3 本時学習を振り返って、まとめる。</p> <p>○ 話し合いを振り返り、深まった自分の読み、それらがどのような読み方をした結果得られたものなのかについて書きまとめること【書く活動2】</p>	<p>○ 児童の書き込みを事前に学習プリントから把握し、列指名や意図的な指名を行い、児童の読みを生かせるようにする。</p> <p>○「ガンの英雄」という言葉に目を向け、前場面までの「たかが鳥」「残雪め」と比べることで、えものとして見ていた残雪を、今では、最高のほめ言葉を使って尊敬していることをとらえさせる。</p> <p>○「また堂々と戦おうじゃあないか。」から、これまでの作戦とつないで考え、正々堂々と戦おうという大造じいさんの気持ちを読み取らせる。</p> <p>○「いつまでも、いつまでも」という繰り返しの言葉に着目し、どれ位の時間なのかを想像させる。</p> <p>○「見守っていました」という言葉と「見て」や「見送って」という言葉と比べて読むことで、大造じいさんが北へ北へと飛び去っていく残雪を見て、これからもいっしょに戦いたいと思いながらも、群れに無事に帰れるのか、本能が鈍っていないか心配している気持ちを読み取らせる。</p> <p>○「おれたち」と言っていることに着目させることで、大造じいさんが残雪をよきライバルとして見るようになったことをとらえさせる。</p> <p>○「今日の学習で」【書く活動2】で書きまとめるための2つの視点を与える。</p> <p>・自分の深まった読み</p> <p>・学んだ読み方</p>
<p>大造じいさんは、残雪のことを自分のライバルとして認め、残雪のことを心配しつつも、これからも、正々堂々と戦いたいと願っている。それは、場面をつないで読んだり、呼称の変化を読むと、「たかが鳥」と見下していたのが「ガンの英雄」と言うまでになり、大造じいさんの残雪への見方の変化が分かりました。そして、「いつまでも、いつまでも」の繰り返しや、「見守って」と見るを比べて読むことで、残雪を心配し、ガンとの次の戦いを楽しみにしている大造じいさんの気持ちが分かりました。</p>	